

- 新宮市熊野川町三津ノ地域は、県の南東部に位置する中山間地域で、水稻を中心とした農業生産を行ってきたが、住民の高齢化・過疎化が進んでいる。さらに、洪水被害や鳥獣被害が深刻。
- 農業水産振興課が主体となり、ワークショップや活性化研修会を開催。**住民による実行計画を策定し、実践に向けて「三津ノ地域活性化協議会」を設立。**
- **生産と加工・流通の連携による生産振興・特産品づくりを推進**し、体験交流活動等を通じて**熊野川ブランドをPR**。
- その結果、**野菜等の新規栽培農家数は23人、加工品を9品商品化**。また、**体験交流メニューを6種開発**。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 新規野菜等の栽培推進

■ 水害を回避できる品目の導入を推進。

- ・新規導入農家数
23人
- ・新規導入面積
95a
- ・新規導入品目数
9品目



サツマイモの試験ほ

1 新規野菜等の栽培推進

- 新規導入品目の検討と試験栽培（展示ほ、試験ほの設置）。
- 新規導入野菜の栽培マニュアル作成。
- 育苗や栽培についての講習会開催。

2 地域産物の活用推進

- 特産品開発部会の設置。
- 加工品の開発支援と商品化の推進。
- マーケティング調査の実施。

2 地域産物の活用推進

■ 地域の米・野菜等を使用した加工品等を商品化。

- ・新商品数 9品
(試作品21品)



試作品の評価会

3 体験交流と熊野川ブランドづくりの推進

- 熊野川ブランド推進組織の育成。
- 農業・加工体験などの体験交流メニューの検討と実施。
- **webサイト活用による情報発信**。

3 体験交流と熊野川ブランドづくりの推進

■ 顧客づくりのための体験メニューを開発。

- ・体験メニュー数
0 → 6種



加工体験

普及指導員だからできたこと

- 加工組合、営農組合、土地改良区などの団体と県、市、JAで構成された**三津ノ地域活性化協議会**を設立、**普及指導員がコーディネーター**となり運営指導することで、地域の活性化が図れた。

6次産業化による地域の活性化

平成 27～29 年度

1. 取組の背景

新宮市熊野川町三津ノ地域は県の南東部に位置する中山間地域で、水稻を中心とした農業生産を行ってきたが、住民の高齢化・過疎化が進んでいる。さらに、洪水被害や鳥獣被害が深刻な地域である。

平成 23 年 9 月の台風 12 号災害の後、平成 24～26 年にかけて地域農業支援対策事業（災害復旧）導入支援や直売所等の復旧支援、ワークショップや地域活性化研修会の開催等に取り組んできた。

平成 25 年には地域づくり活動組織「三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪殖保）」を設立した。平成 27 年から生産・加工・流通の連携による生産振興・特産品づくりを推進するとともに体験交流活動等を通じて熊野川ブランドを PR し、収益性の向上など、地域の活性化をめざした。

2. 活動内容

(1) 新規野菜の栽培推進

ア 新規導入作物の検討及び試験栽培

地域で特産となり得る品目の試験栽培を実施。台風被害対策として耐湿性のある春まき野菜と秋冬野菜の栽培を検討。

◇春まき野菜(耐湿性)の展示圃設置

H27～	日足区	サトイモ、ショウガ、ジャガイモ、ゴボウ、カブ
H28 年度	棕ノ井区	サツマイモ
H29 年度	棕ノ井区	サトイモ

◇秋冬野菜の試験圃設置

H27 年度	日足区	ダイコン、キャベツ、ブロッコリー育苗試験
H28 年度	全域	タカナ、ブロッコリー、キャベツの育苗各農家での試験栽培
H29 年度	棕ノ井区	葉ネギの試験圃

イ 秋冬野菜栽培推進

平成 27 年度は、地域の農業者を対象に農作物の生産、鳥獣被害状況、集出荷・配食サービス等に関するアンケートを実施し、併せて野菜等栽培希望者の募集を行った。なお、春夏野菜では水害に強い作物としてサトイモ栽培を推進した。

平成 28 年度は、生産部会でタカナ、キャベツ、ブロッコリー、ジャガイモ、ダイコン、ニンジン、ハクサイ、タマネギの 8 品目の栽培マニュアルを検討した。秋冬野菜推進品目を検討しタカナ、ブロッコリー、キャベツの苗を提供することを決め、栽培希望者を募り、栽培講習会や育苗講習会を実施した。

平成 29 年度は、生産部会でジャガイモ、サトイモ、ショウガ、コンニャクイモを推進品目とし栽培講習会を実施した。また、加工業務用葉ネギ試験栽培希望者を

募り、育苗講習会や栽培講習会を開催した。



葉ネギ講習会



加工業務用葉ネギ試験圃

ウ 体験農園の設置による新規栽培者育成

生産部会で体験農園を設置。平成 27～29 年度は新宮市商工会議所青年部の飲食店経営者グループが定植、管理作業や収穫を体験。また、平成 29 年度にサツマイモ栽培者を一般募集し、定植、管理作業や収穫・加工体験を行った。

(2) 地域産物の活用推進

ア 加工品等開発検討会、試作研究の実施

協議会構成員の熊野川産品加工組合、熊野川生活研究友の会会員等がメンバーとなり、特産品開発部会を設置した。打合せ会議や事例調査、新規導入作物を活用した料理・加工品試作や評価会を実施した。

イ 加工品・料理等の商品化、マーケティングの実施

試作品の中から有望品を選定し、パッケージ制作等により商品化を図った。ロゴ・パッケージデザインについては専門家へ依頼した。特産品開発部会でセット商品について検討、ギフトセットの試作販売を行った。

また、実需者向けの商品開発として、実需者との検討会を実施。平成 28 年度には新宮市内の飲食店（20 店舗）を対象にカット野菜の提供・試用状況等についてのアンケート調査を実施。平成 29 年度は道の駅レストラン等（2 店舗）を対象に業務用商品の提供・使用状況調査を実施した。

(3) 体験交流と熊野川ブランドづくりの推進

ア 体験交流メニュー検討

小中高校生の農業・加工体験に関する打合せ会、米・野菜の収穫体験や野菜料理体験を実施した。また、景観作物の導入や交流イベントに係る検討会、打合会を実施した。

イ 推進組織育成・情報発信

平成 28 年度に熊野川ブランド推進部会を設置。web サイト活用による PR について検討した。平成 29 年度はホームページ、フェイスブック、インスタグラムを立ち上げて、野菜の栽培推進、特産品づくりや交流イベント等 PR を行った。

3. 具体的な成果

(1) 新規野菜の栽培推進

農家が本格的にサトイモ、サツマイモ、ショウガ等の栽培を開始、直売所「かあ

ちゃんの店」や交流販売イベント「くまのがわ市」等で販売した。秋冬野菜栽培マニュアル（8品目）を作成した。

新規導入農家数 23人
 新規導入面積 95a
 新規導入品目数 9品目



サトイモ



くまのがわ市

（２）地域産物の活用推進

料理・加工品試作研究などにより新規導入作物等を活用した試作加工品は三年間で21品。商品化は「野菜ケーキ」、「焼干し芋」や「五目おこわ」等の9品となった。

◇加工品等試作研究状況

年度	内容	試作品数
H27	既存産品のコメや試験栽培した秋冬野菜（タカナ、ダイコン）を使った加工品等	10品
H28	新規導入作物（ニンジン、ジャガイモ、サツマイモ、ゴボウ、生姜）を使用した加工品等	8品
H29	新規導入作物（サトイモ）を使用した加工品等	3品

◇商品化の状況

年度	内容	商品化数
H27	「味噌だれ」「しょうゆだれ」	2品
H28	「野菜ケーキ」「生姜佃煮」「生姜しそ漬」「焼干し芋」	4品
H29	「五目おこわ」「太巻きずし」「業務用茶がゆ」	3品

（３）体験交流と熊野川ブランドづくりの推進

イベント会場や新宮市内等で「くまのがわ市」を開催した。新宮市内での「市」については固定客もでき、今後定期的な開催を希望されている。

体験交流は、近畿大学附属新宮中学校1年生の田植えや稲刈り体験、熊野川小学校1年生のサツマイモ掘り体験等を実施し大変好評であった。

一般参加者による景観形成作物栽培はヒマワリ5ha 40万本で、「ひまわり祭り」には約2千人の参加となった。

新宮市内外の希望者を募り、サツマイモ体験農園（植付け・管理、収穫、シェフに習うスイーツ、加工）を4回開催した。初めての取組であったが、10組30名の参加があり好評であった。

体験交流メニューを検討・実施し、3カ年で6種を開発した。

ロゴ、ラベル、キャラクター等デザイン制作やwebサイト活用によるPRにより、認知度アップが図られた。



田植え体験



さつまいも加工体験

4. 農家等からの評価・コメント（特産品開発部会 T氏）

三津ノ地域活性化協議会の特産品開発部会メンバーとして地域産物を使った料理や加工品の試作研究に取り組んで来ました。一つの素材から色々な加工品や料理を作り上げるのは大変な作業ですが、評価会等で高評を得て商品化され、販売されるという事はとても嬉しくやりがいを感じています。

5. 普及指導員のコメント（東牟婁振興局農林水産部農業水産振興課・主査・村畑恵一）

住民の高齢化・過疎化が進む地域で特産となる野菜を探索し定着させるため、協議会メンバーと春まき（耐湿性）野菜実証展示ほの設置、秋冬野菜苗の供給体制づくり等や加工業務用葉ネギの検討に取り組んできた。その結果、野菜栽培に興味を示す農家が徐々に増えている。また、地域産物を活用した料理・加工品づくりを進める中で加工販売グループも1団体が組織された。

今後は、新規栽培農家をさらに増加させるとともに、地域産物を活用した加工品や料理メニュー等の開発など6次産業化によって所得向上を図る等、地域活性化に向けて支援していく。

6. 現状・今後の展開等

（1）新規野菜の栽培推進

実証ほの設置、栽培技術の向上、苗供給システムの構築、新規栽培者の確保を図る。加工業務用葉ネギの栽培技術を確立し生産拡大を図る。また、栽培研修会や現地検討会を開催し生産の安定化を図る。

（2）地域産物の活用推進

引き続き生産物を活用した加工品や業務用料理等の試作研究を行う。試作した加工品や業務用料理はラベルや包装について検討し商品化を図る。量販店デリやレストラン向け、ネット販売等、多様な販売方法を検討する。

（3）体験交流と熊野川ブランドづくりの推進

くまのがわ市や体験交流等イベント開催を継続。SNSによる情報発信を強化する。